

今月は、ハウスでは開花、トンネル・露地では萌芽、展葉が始まります。それに伴って管理作業が忙しくなりますが、管理作業を適期に実施することが一番の省力となります。生育状況と気象予報を確認しながら計画的に作業を実施しましょう。

【ハウスブドウ】

〈巨峰〉

○展葉 7 枚～開花前

昼温：25～26℃ 夜温：18～20℃

◇温度管理

ハウス内の温度が高いと生育は早まりますが、新梢の徒長や生育のバラつき、花ぶるいの原因となります。新梢と花穂の生育が揃っているのが理想です。ハウス内の温度が上がりにすぎているか、加温機の設定温度とハウス内の実温に差がないかこまめに確認しましょう。

◇水管理

かん水は開花期に向けてハウス内の湿度を下げるために徐々に減らします。ただし、過乾燥状態はホウ素欠乏を助長し、生育に悪影響となるので地表面の乾燥状態をみながら短時間のかん水を行ってください。

◇枝管理

展葉、新梢伸長に伴って枝が混み合い日照条件は悪くなります。日照不足は単為結果や花ぶるいの要因となるため、誘引の手直しを行い受光態勢を改善します。特に新梢の誘引及び配置については、開花～実止まり後の実施は困難になりますので、新梢が繁茂する前に実施してください。

◇ホウ素欠乏症対策

前年、ホウ素欠乏の症状が確認された園では必ず実施してください。展葉 6～7 枚（開花 2 週間前）頃の薬剤散布時にホウ砂 3,000 倍を混用してください。開花 1 週間前はホウ砂 1,000 倍＋生石灰 1,000 倍とします。

◇花振るい対策

展葉 10～11 枚頃（開花始期まで）に、フラスター液剤 500 倍を 10a あたり 150L 散布します。散布時期が早すぎると、開花期に効果がなくなり新梢が伸びだして実止まりが悪くなるので、一番早い花が咲きかけたのを目安に散布を行いましょう。

○開花期～実止まり

昼温：25～28℃ 夜温：18～20℃

◇温湿度管理

結実には温度だけでなく、湿度も大きく影響します。開花期に曇雨天が続くとハウス内の気温が上がらず湿度が高くなり、実止まりにマイナスとなります。また、灰色かび病の発生も助長されます。

そのため、曇雨天で日中でも気温が上がらない場合は、加温機の設定温度を夜温 23～25℃まで上げ、ハウス内の温度確保に努めてください。

満開期を過ぎ、実止まり決定機以降高温で推移すると、初期の果粒肥大が悪くなるので、昼温 30℃以上、夜温 20℃以上にならないよう注意してください。

◇水管理

開花期間中は実止まりを良くするために、かん水を控えます。ただし、過乾燥になると樹勢低下など悪影響につながりますので、状況によっては短時間のかん水を行ってください。

◇結実対策

開花期間中に花軸を指先で軽くはじいたり、棚を揺らすなどして花冠（キャップ）の取れを良くする事も、受粉の手助けとなり結実の安定に有効です。ただし、開花していない花軸をはじいたり、花冠（キャップ）を無理やりにとる事は受粉にとってマイナスとなりますので、よく観察してから行ってください。

〈シャインマスカット〉

シャインマスカットは無核処理を行うため、結実促進のために水を控える必要がありません。生育期間を通してやや湿潤状態（pF1.8）を保ってください。

無核化率向上のために展葉 10 枚頃に、ストレプトマイシン液剤（ストマイ液剤 20：1000 倍、アグレプト液剤：1000 倍）を散布します。処理時期が遅れないように注意してください。

1 回目のジベレリン処理（満開時～満開 3 日後まで、25ppm）の際に、先端まで完全に開花していない花穂に処理を行うと、穂軸のわん曲や小粒化が発生しやすくなります。また、処理が遅れると有核果混入の原因となります。先端まで開花が確認された花穂から順次処理を行いましょう。

近年、開花期に花蕾が黒変する「花蕾黒変症」、満開 40～60 日頃に果梗が黒変する「果梗黒変症」等、新たな生理障害の発生報告、相談が増えています。どちらも管理時における過湿や乾燥といった条件で助長されますので、注意してください。

【トンネル・露地ブドウ】

トンネル栽培では、ビニール被覆時期となります。萌芽前後は発芽を揃えるため、定期的にかん水や枝水を実施し、湿度を高めます。萌芽期以降は晩霜被害の恐れがありますので、園内に冷気が停滞しないようサイドを上げて通気性をよくしておきましょう。

昨年秋の高温少雨、冬に入ってからの高温等の影響で萌芽のバラつきが懸念されます。芽かきを丁寧に行い、芽数を整理することで生育を揃えましょう。特に長梢せん定における長果枝利用の際は、先端数芽の芽かきで萌芽を揃えましょう。

【苗木の植え付け】

○植え付け位置の決定

- ・隣の樹との間隔が狭く、枝が重なり合うと高品質果実生産ができません。
- ・樹種樹形ごとの主枝長、新梢長を考慮して十分な間隔を取って植え付け位置を決めましょう。

○植え穴・埋め戻し土の準備

- ・深さ 20cm 程度、幅 60cm 程度（根が伸びきる程度）の穴を掘ります。
- ・苗の深植え防止のために穴の中央部はやや土を盛るようにしておきます。
- ・埋め戻し用土にピートモス（土量の 1～2 割）、ようりん（500g 程度）、苦土石灰（500g 程度）を混和します。

○植え付け

- ・仮植えした苗をできるだけ速やかに定植します。
- ・枝の先端約 1/3 と根の先端を切り返します。
- ・細根が多い根は、弱い切り返しとする。
- ・根が横に這うように広げ、穴の中央部に苗を立て埋め戻します。
- ・接木部は必ず地上に出します。

○植え付け直後

- ・苗の横に支柱を設置し、固定します。
- ・植え付け直後の苗は特に乾燥に弱いので、たっぷりとかん水を行いましょう。

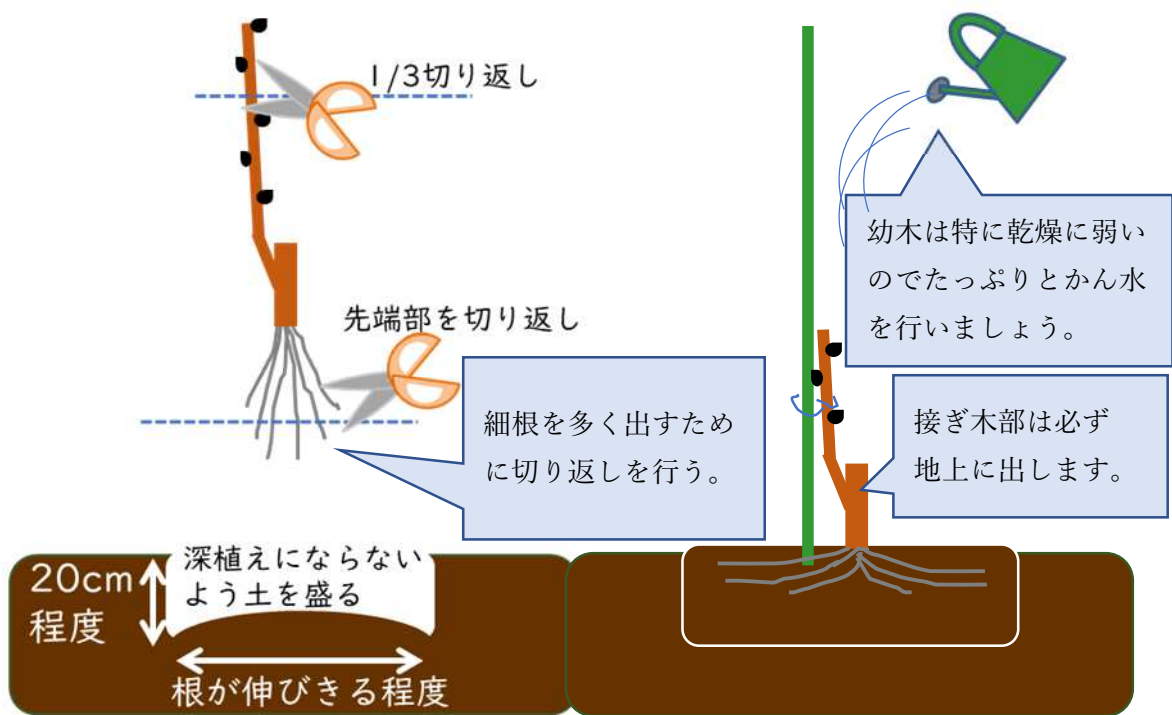


図1 苗木植え付けイメージ

※シャインマスカットにおける未開花症について

新聞等でも話題となっている「未開花症」については、現在までに県内での報告はありませんが、九州でもすでに発生が確認されております。主に開花期の花冠が正常に外れず開花しない症状が確認されています。詳細はベジフル SAGA12月号（2023年,p15~18）に掲載されていますので、ご確認ください。

同様の症状を確認されましたら、JA 担当者もしくは県関係機関にご相談ください。